



図 1 データが行動に至るまでの過程

「プレゼンテーション」の特集にあたって

平本 巖

本誌2月号のトップの視点の結論に曰く「そもそも、どんなよい研究成果も、相手が理解しなければ何の意味もないはずである。それは一つにORマンのプレゼンテーションの良し悪しにかかっている。このプレゼンテーションの能力は、ORマンの重要な資質の一つではなからうか。」

このように、ORにおいて、プレゼンテーションが重要であることはしばしば指摘されています。会社などでも、役員さんはよく「1枚にまとめてもってこい。」という聞いております。

そこで、図、グラフ、表などのうまい書き方を特集してみたら読者諸氏のお役に立つであろうと考えて組んだのがこの特集号です。

「管理と改善に役立つ図表とグラフ」を出版された細谷氏には概論を、図画表現法について造詣の深い江副氏には最近の研究の一端を、当学会論文誌Vol. 21, No. 3でリフレクション・チャートと命名された柳井氏にはその詳しい解説を、プロッタによる作図システムの活用で評判の四国電力からは佐藤・内田両氏にその概要を、そしてかわいいマルJ坊やとダメJ坊やの絵柄のスタンプで社内の事務効率の向上に見事な成果をあげている本田技研には、そのスタンプと東塚氏による簡単な解説をいただきました。

なお、各位に執筆をお願いした時点では、特集の表題が「図画表現法」または「グラフィックOR」となっていました。原稿の中にそのような表現が見られるのはそのためであります。原稿が集まった段階の編集委員会で「プレゼンテーション」となりましたことをお断わり致します。

また、本誌では色刷りができないために四国電力および読者諸氏にご迷惑をおかけすることになりましたが、ORのプレゼンテーションにおいては、色をつけることも大切だと思います。

(日本科学技術研修所)

して、新しい発想や創意工夫を生み出し、改善案を作り出す。

【第4段階】意思の決定

得られた新しい案や改善案について、その適否や採否を判断し、行動を決定する。

【第5段階】行動

必要な行動を起こし、アクションに結びつける。

これらの流れを図に表わしたものが、図1である。この図に示すように、1つの行動が企画され

実行されるまでに、事象を伝える形は、「原データ→表→図・グラフ→改善案」というように姿を変える。つまり、順次加工が施されることにより、加工レベルが上ってゆくのである。

このように、“情報”は、ある目的のために「活用できるよう表現された事象の内容」でなければならない。

1.3 質の良い情報

私たちはよく、

●統計解析をしっかりとやり、100余頁に及ぶ立